

# 法政大学第一高等学校同窓会報

発行所 法政大学第一高等学校同窓会 電話0422~22~8131(内)  
発行人 岩村元雄 東京都武蔵野市吉祥寺東町3~5~7  
(題字は馬場校長筆) 昭和52年10月1日(土) 創刊号

本会は母校の発展を願う卒業生が相互の親睦をはかり連絡を密にし、互助の実をあげることが目的とする。  
(規約第2条)

## 創刊記念特集号

### 『発刊を記念して』

法政大学第一高等学校長

同窓会名誉会長

馬場昌平



学総長は、「他校がいたすに競争心駆られて居る時、本校は協調と和の精神をもって進まれた」と激励の言葉を述べられました。この精神は今日もなおわが校において、自由な校風のもと、人間的協力的雰囲気のみならず、教育を追求することができ、また追求しなげばならないと考えております。

同窓会々報創刊号発刊に当り、心からお祝いの言葉を申し上げます。去る6月初旬に本校でおこなわれた同窓会総会は、まさに盛大でありました。あれは沢山の同窓生が母校に参集し来られたという事は、校長としてもまことに心強いお喜びでした。本校の創立時、小山松平法政大

法政大学第一高等学校

同窓会々長

倉沢豊丸



この度同窓会の新事業計画の一環として同窓会々報を発刊する運びとなりましたことお祝いに喜ばし

運営発展の為有意義なことを存じて会報の発刊を企画し、協力を願います。

この度、不肖私、計らずも先般の総会席上、総意により会長の重責に選ばれ、身に余る光栄と存じ又責任の重大さを痛感するのであります。併し共々選ばれた熱意ある新役員執行部諸議員氏と共に本会の運営に創意工夫し、その任を遂行してゆきますならば会員各位の期待に報い、この重責を果すことが出来るのではないかと思ひ

本会運営に当り、新事業計画の一環として年々会員数の増える本会の現状に則り、先づ第一事業として本会への理解と協力、そして会員相互の親睦を増進する目的を以て会報の発刊を企画し、協力を願います。

茲に同窓会々報創刊号発刊を祝ひ母校が、同窓会がいよいよ発展することを期待し、会員諸氏の絶大なるご協力をお願いする次第であります。

同窓会顧問

松本一磨



同窓会々報の創刊を心から御祝ひ申し上げます。

法政一高同窓会総会以来申し傳なかつた機関誌発行という事業がここに実現したという事は、一面同窓会の一歩みとしてその責任の一端を果すべく、心から御祝ひ申し上げます。

喜んで居る次第であります。言葉は記憶に留まっています間は価値がありますが、忘却の彼方へ去ると同時にその価値を失います。しかし、活字として印刷されたものは、それが保管される限り生き続けます。この会報が、同窓会員一人一人の心を結び、合う一きずなとして大にその役割を果したことを願うものであります。

(前会長)

同窓会副会長

中村雅明



会報の第一回発刊を心からお祝い申し上げます。同窓会が創刊し、母校の発展を願う卒業生が相互の親睦をはかり、連絡を密にし互助の実をあげることを目的とすることあります。年々卒業生が出ることに伴って、会員数が増加し組織が拡大されていきますが、それだけでは真の目的を果すことは出来ません。

同窓会の発展には三つの事業を行なうことが欠くことの出来ない条件であります。第一、組織の確立(名簿の作成)第二、会報の発行(情報の交換)第三、総会の開催(懇親)これが定期的に行なわれることにより初めて同窓会の存立があるわけですがこれら三事業は会員全体の協力がなければ出来ません。本年の総会が盛大に実施出来たのも、学生代表委員組委員を初め会員諸氏のご支援とご協力があつたからであると思っております。この総会がきっかけとなり同窓会全体の気運が盛り上り、同窓会全体が一体となり、この総会を契機として、このことがいよいよなごさす今回の会報発行につながつたものと信じ快に堪えません。これを機に同窓会の発展のために微力を尽したいと思ひます。

同窓会副会長

斉藤英雄



このたび同窓会々報の創刊号が発行されることとなり、誠に同窓会に存じます。伝統ある法政一高同窓会の歴史に残ることであり、会員相互の親睦を図るうえにも有

意義などあります。王陽明の朋党論を讀んでみますと、次のような一節があります。「おまき君子とは、道を同じにするをもつて朋となり、小人とは、利を同じにするをもつて朋となる。小人には朋もなく、ただ君子のみならずわが友なり」とこの意味において、なんの利害関係によらず、たゞ美しき母校愛によりのみ成立したる本同窓会のごときは真の君子の交わりであり、お互さまごとの「朋」をえす。まことの「朋」の法政一高同窓会。

同窓会副会長

野村光一



母校を中心として、強く卒業生が結束してこそ、同窓会の隆昌があると思ひます。昭和五十一年度同窓会総会は去る六月五日、千三百名余の会員が、吉祥寺の母校に集し、盛大裡に開催されましたことは、ご同慶に堪へません。

同窓会の事業計画の一環として本日、会報の創刊記念号を、発刊する運びになりましたことは、誠にめでたいことと存じます。今後、編集内容の拡充をめざして、益々よりよい会報にしていくことを志願しております。吾が、法政一高同窓会が、益々発展し、同窓生諸兄の親睦を高められますと共に、ひいては、母校の発展のうえに貢献せられますことを期待するものであります。

同窓会副会長

井沢雄蔵



わが法政が誇る自由と進歩の気風は、明るいオレンジカラーでその輝きを増している。気さくで淡白な校友諸兄の持味はまた社会によく受け容れられるところであり、各地で格別な働きをしていくことは慶賀に堪へない。

現在、母校のPTA会長を仰せつかつておられるが、現役の諸君も実によく頑張つておられるのがわかる。昨年行われた過去十年間の追跡調査によれば、母校出身者は大学において全学部を通じて平均点を上廻る成績であったという。現役も先輩も母校発展のため、それぞれの立場で努力されていることは誠に頼もしく喜ばしい限りである。この創刊記念号の発行を機に歴史を進める力が一段と強まらぬことを期待してやまない。

同窓会顧問

佐藤康二



同窓会報の発刊おめでとうございます。

願ひて昭和十六年の春、旧制の法政中学校第一回生として卒業してすでに三十六年、いまも五十の半ばをこしてしまいました。何かともあれ、年の経つのは早いものだという感一杯です。ひと口にいつ、當時の法政中

同窓会顧問

林英男



同窓会々報の発刊おめでとうございます。

むしる連きの感を抱いている。戦前中等部を卒業した自分には同窓、校友諸兄の消息は途年暮らぎ、年令のためか近時特に心淋しく感じている。年一回の総会は、時間と進行の関係から形式に流れざるを得ず、それ故に知りたいたいと思う母校の近況、それに若い校友

総務委員長

岩村元雄



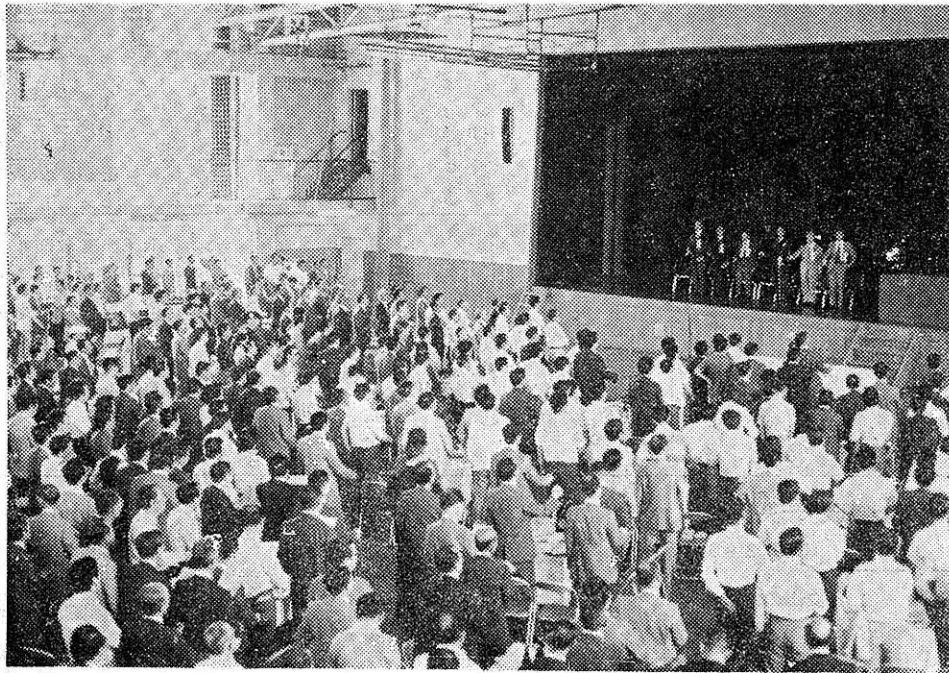
母校と会員を結び、より密接なきつなとして、かねてより念願でありました同窓会々報を発刊する運びとなりました事は、野村副会長はじめ編集に携わつた委員諸兄の御尽力と協力の賜物と厚く感謝致して居ります。今般掲載ではございますが、野

村先輩の後を引き継いで総務委員長をお引受けする事になり、責任の重大さを痛感している次第です。当面は本年計画されました事業方針の業務を二つ二つ遂行して行く事によって、同窓会が一層発展拡充すると確信致して居ります。今後業務遂行に当つては、不慣れの為何かと行き届かぬ点もあるとは存じますが、鋭意努力致す所存ですので会員各位の一層の御協力を願ひ申し上げます。

との交歓、世代的格差から止むを得ないとは思ひつつも同じ学舎に学んだ人達、と思うと何か割切れないものがある。希わくばこの誌によって校友間の心の扉を開き、旧きを偲び、新らし時代を拓く員として母校の徽章H.O.P.と誇りを持って本報が真に校友相互の心の絆になって欲しいと思う。終に本報の発刊に努力された委員諸兄に万障の敬意を表します。

# 52年度総会開らかる

## 52年度総会



52年度総会

昭和五十二年総会は、本年六月廿一日から廿三日、馬場法政一高校校長、法政一高講師、あふれるばかり、千三百名以上の参加を得て、盛大に開催された。

大学校友会志村副会長、体育後援会長、滝沢元校長、現元教諭のご来賓を迎え、山田 総務副委員長の司会により定刻開催。松本会長の今後の運営を力強い挨拶があり、同窓会開催までの経緯同窓会の今後の結束と支援を求められた。

続いて正木理事、詳細にわたる経過報告があり、事務局方代、先生の会計報告、大城会計監査の会計監査報告が行なわれた。議事に入るに当り、議長団の選出が行なわれ、松崎和夫(高9)上家武彦(高9)、神林厚孝(高15)、佐藤貴志(高22)の四氏が選出された。

議長に入り、土橋総務副委員長から「同窓会規約の改正について」岩村財務副委員長から「同窓会々費の値上げについて」、小池渉与から「役員選出について」の各提案説明が行なわれ、各々、満場一致で可決承認された。

引続いて、新会長、倉沢豊丸氏(中1)から、会員各位の絶大な支援を求める挨拶があり、新副会長四氏の紹介が行なわれた。これが終って、来賓の祝辞があり、馬場校長(名誉会長)から、学校の近況と同窓会発展の祝辞が述べられ、中村哲総長からは、大学の近況並びに来る昭和五十二年に迎える大学創立百周年記念事業にふれ、又弟分に当る法政一高同窓会発展の祝辞が述べられた。

議事に入り、土橋総務副委員長から「同窓会規約の改正について」岩村財務副委員長から「同窓会々費の値上げについて」、小池渉与から「役員選出について」の各提案説明が行なわれ、各々、満場一致で可決承認された。

引続いて、新会長、倉沢豊丸氏(中1)から、会員各位の絶大な支援を求める挨拶があり、新副会長四氏の紹介が行なわれた。これが終って、来賓の祝辞があり、馬場校長(名誉会長)から、学校の近況と同窓会発展の祝辞が述べられ、中村哲総長からは、大学の近況並びに来る昭和五十二年に迎える大学創立百周年記念事業にふれ、又弟分に当る法政一高同窓会発展の祝辞が述べられた。

最後に大木総会準備副委員長の挨拶と、元応援団長の神林代表委員の力強いリードで歌歌を斉唱し、第一部総会は無事終了した。第二部懇親会に移り、中村総会準備委員長から、総会が盛大に行なわれたことに対し謝辞とお礼の挨拶があり、土井先生の音頭で同窓会発展と会員の健康を祝して乾杯、各クラス又々の再会とあつてか、先生をかこみながら、話しも大いにはなす、飲むことにもかにも同窓会の懇親会らしい風景があらわらに見られた。

## 同窓会の沿革

法政大学第一高等学校同窓会は昭和十六年三月、旧法政中学校及び商業学校同窓会として誕生したのがその前身である。同年第一回卒業生三〇名を出したが、戦後新制高等学校の発足に伴い、同窓会の名称も変更され現在に至っている。同窓会発足以来、中学九回商業八回、新制高校も既に二十九回の同窓会を出して、会員総数実に二万二千名を数えるまでに達した。この間、戦災により母校も灰塵に帰し、会員各自の連絡もこれす、会も有名無実となり、何らの実績も残さず十年余の歳月はいた

すらに流れてしまった。昭和三十三年、現在の吉祥寺に母校の新校舎が建設されたことより、同窓会再建の気運が高まり、中、高を一文化した同窓会の組織が確立され、昭和三十三年、再建第一回総会を、法政大学富士見町校舎において開催、六〇〇名余りの会員が参加。この年第一回の名簿が発刊された。

昭和三十四年、三十五年は委員総会をもって総会にかえ、三十六年六月、第四回総会を東条会館において開催したところ、実に九〇〇余名におよぶ会員の参加があった。第五回は委員総会をもって終了した。この間、母校創立二十周年記念事業寄付金募集、硬式野球部甲子園出場に際して全員総力を挙げて募金運動を展開するなど、同窓会の活動も活発に行なわれてきた。三十八年六月、高輪のプリンスホテルにて第六回総会が盛大に行なわれた。その後諸般の事情により総会が途絶えていたが、昨年秋頃より総会開催の要望が多くなり、本年六月、始めて二高校舎に於て第七回総会を開催したところ、体育館を埋めつくす程の盛会となり約一千名を超える参加者があったことは耳あたらしきことである。以上が同窓会の沿革であり、経過報告にもかわるものである。

# 52年度総会議事

議長に  
松崎和夫(高8) 上家武彦(高9) 神林厚秀(高19) 佐藤貴志(高22)の四氏が選出され、議事が進行された。

第一議案  
「同窓会規約の改正について」  
土橋総務副委員長から提案説明があり、左記の通り満場一致で可決承認された。

〇改正理由及び内容  
第一条関係 同窓会事務所の住所が変更となったため、正当住所に改正する。  
第四条、第五条関係  
(1)学校と同窓会のきずなを、なお一層強固なものにするため、現職

校長を名誉会長とする。  
(2)会長を補佐し、同窓会運営をなお強固にするため、現行副会長を2名増員し、4名とする。

第一議案  
「同窓会々費の値上げについて」  
岩村財務副委員長から提案説明があり、左記の通り、満場一致で可決承認された。

〇改正理由及び内容  
同窓会の経費は、正会員となるとき(公費する)納入する同窓会々費によって運営している。最近の印刷費、通信費、人件費等諸物価の上昇により、財政的に逼迫した状況にある。従って52年度(53年3月末)から、千円に増額いたします。

同窓会々費 金二千円也  
(53年3月末迄者から適用する)  
第二議案  
「役員を選出について」  
小池参与から提案説明があり、左記の通り満場一致で承認された

〇内容  
会長、副会長については、「委員において推薦すること」になっているが、今般、会長、副会長を選出するに当り、選挙委員会で審議し、委員会の推薦により、次の方を推薦する。

- 会長 倉沢豊丸(前相談役)
- 副会長 中村雅明(留任)
- 斎藤英雄(同)
- 野村光一(前総務委員長)
- 井沢雄蔵現PTA会長
- 同 (松本前会長は、顧問となる)

# 52年度事業方針

同窓会の昭和五十二年度事業方針は、母校の発展を願ひ、卒業生相互の親睦を図り、連絡を密にして、互助の実をあげていくため、次の五項目のテーマを軸に推進を期する考えであります。

一、同窓会々費の作成  
①同窓会々報の発行  
②同窓会々報の発行  
③同窓会規約並びに同細則の検討改善  
④52年度収支予算計画の策定  
⑤学校の諸行事に対する協力  
一、同窓会々報の作成

組織の強化拡充を計り、会員相互の連絡を密にするため、同窓会名簿を作成してまいります。既に具体的準備に入り、昭和五十二年四月発行を目途に促進してまいります計画であります。

二、同窓会々報の発行  
同窓会の運営、並びに会員の連絡情報、学校の近況等、又会員相互の親睦と互助の実を促進するため、会報を発刊いたします。以後毎年春秋一回発行する計画であります。

三、同窓会規約並びに同細則の検討改善  
同窓会の一層の発展を図るため、規約並びに細則のみならず、行い、実体にあつた改善、矛盾個所の是正を図ってまいります。

四、52年収支予算計画の策定  
各事業計画にもとづく収支予算計画を策定して事業推進の財政的裏付けの確立を図ってまいります。

## 昭和52年度同窓会総会収支決算書

昭和52年6月5日

収入の部		支出の部	
会員券売上高	3,912,000	懇親会費	2,192,500
@3,000×1,304枚		清掃費	86,000
寄付金 9件	100,000	記念品代(母校へ寄贈)	200,000
募金収入 404件	202,000	印刷・通信費	183,770
広告料 6件	60,000	会議費	661,591
		会費回数 21回	
		総延長 589名	
		雑費	132,100
		一般会計 繰入	818,039
合計	4,274,000	合計	4,274,000

総会準備委員長 中村 雅明(印)  
副委員長 大木 興(印)

# 同窓会規約

第一章 名称  
第一条 本会は法政大学第一高等学校同窓会と称し、事務所を東京都武蔵野市吉祥寺東町三の五番地七法政大学第一高等学校内におく。

第二章 目的  
第二条 本会は母校の発展を願ひ、卒業生が相互の親睦をはかり、連絡を密し、互助の実をあげることを目的とする。

第三章 会員  
第三条 本会は次の会員として組織される。  
一、正会員 法政中学校・法政大学商業学校第一本科・法政大学商業学校第一本科の卒業生を以て。

第四章 役員  
第四条 本会には次の役員及び委員をおく。  
名譽会長 一名 会長 一名  
副会長 四名 委員若干名  
計監査 名 会計 二名

## 母校愛から 出た募金

馬場校長からのお言葉  
本日は、同窓会総会が本校において盛大のうちに開催され、幹事の方々に、会員各位のご賛同により、金二十万二千円の募金が集まりました。皆様のご協力を厚く御礼申し上げます。募金は当日、倉沢会長から、馬場校長に直接寄贈いたしましたところ、馬場校長から次の通り、御礼の言葉がございましたので皆様にお伝えいたします。

会長・副会長の任期は二年とする。他の役員及び委員の任期は一年とする。但し留任を妨げない。

第五条 法政大学第一高等学校現職校長を名誉会長とする。会長・副会長は委員において推薦する。委員は各学年毎の会員より選出する。会計は委員の中より互選し、会計監査は会員の中より選出する。

第六条 会長は本会を代表し、会務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はこれに代る。委員は会務の審議・運営に当る。会計監査は会計事務その他を監査する。

第七章 本会に顧問、参与、相談をおくことができる。

第八章 本会には第一案の目的達成のため次の事業を行う。

一、総会 毎年一回会長がこれを招集し、事業報告・会計報告をおこない重要な事項について審議決定する。なお会長は必要に応じて臨時にこれを招集することができる。

二、委員会  
三、その他必要な事業

第六章 会計  
第九条 本会の経費は正会員の納入する会費及び寄付金によって運営する。

第十条 会計年度は毎年四月一日より翌年三月三十一日までとする。

附則  
一、本会則を変更するには総会の議決を経なければならぬ。  
二、本会則は昭和二十三年八月から実施する。

# 52年度同窓会新役員決まる

## 会長に倉沢豊丸氏

### 副に中村・齊藤・野村・井沢の各氏 名誉会長に馬場校長

前会長松本氏は顧問に

<p>會長 ( )は卒業年 倉沢 豊丸 (中1昭16卒)</p> <p>副會長 中村 雅明 (中1昭16卒) 齊藤 英雄 (昭7昭21卒) 野村 光一 (昭7昭21卒) 井沢 雄蔵 (中7昭21卒)</p> <p>名譽會長 馬場 昌平 (現校長)</p> <p>顧問 佐藤 康二 (中1昭16卒) 林 英男 (昭1昭16卒) 松本 一磨 (昭1昭16卒)</p> <p>相談役 寺本 隆雄</p> <p>西田 実 (昭3昭17・12卒)</p> <p>理事 正木 信一 (中1昭16卒) 三浦 一郎 (中1昭16卒) 柴田 富雄 (昭1昭16卒) 明石 信夫 (中2昭17卒) 福島 明 (昭2昭16卒) 山口 匡満 (中3昭17卒) 大島 健夫 (昭3昭17卒) 菅原 博 (昭5昭20卒)</p> <p>参与 柴山 猛 (昭1昭16卒) 上田三代治 (昭2昭16・12卒)</p>	<p>西沢 稔威雄 (昭3昭17・12卒)</p> <p>山口 栄一 (中4昭19卒)</p> <p>小池 靖夫 (中4昭19卒)</p> <p>野中 慶三 (中6昭20卒)</p> <p>水上 昭夫 (中7昭21卒)</p> <p>石井 寿男 (昭10昭33卒)</p> <p>杉村 勝弘 (昭12昭35卒)</p> <p>會計監査 大城 豊 (中5昭20卒) 富野 優 (昭7昭21卒)</p> <p>事務局 万代 治郎 (法政一高)</p> <p>日向野道子 (法政一高)</p> <p>會計 万代 治郎 (法政一高)</p> <p>總務委員長 岩村 元雄 (昭8昭31卒)</p> <p>總務副委員長 加藤喜一郎 (昭6昭20卒)</p> <p>松崎 和夫 (昭8昭23卒)</p> <p>土橋 肇宏 (昭6昭29卒)</p> <p>赤沼啓三郎 (昭8昭31卒)</p> <p>上条 武彦 (昭9昭32卒)</p> <p>神林 厚秀 (昭15昭38卒)</p> <p>佐藤 貴志 (昭22昭45卒)</p> <p>財務委員長 大木 興 (中1昭16卒)</p> <p>財務副委員長</p>	<p>名譽編纂委員長 山田舜郎 (昭3昭26卒)</p> <p>名譽編纂副委員長 田沢 重昭 (昭7昭21卒)</p> <p>原田 潤 (昭10昭33卒)</p> <p>學年代表委員 中木 興 (中1)</p> <p>窪谷 恭二 (中2)</p> <p>山口 國満 (中3)</p> <p>小池 靖夫 (中4)</p> <p>大島 芳昭 (中5)</p> <p>森 健 (中6)</p> <p>積田 見孝 (中7・8)</p> <p>松本 一磨 (昭1)</p> <p>上田三代治 (昭2)</p> <p>西沢稔威雄 (昭3)</p> <p>吉田 和男 (昭4)</p> <p>菅原 博 (昭5)</p> <p>加藤喜一郎 (昭6)</p> <p>川島 定春 (昭7)</p> <p>松崎 和夫 (昭8)</p> <p>上山 碩 (中9高1)</p> <p>石川 誠 (昭2)</p> <p>松本 節也 (中9)</p> <p>山田舜郎 (昭3)</p> <p>永田 貞雄 (昭4)</p> <p>秋口 正徳 (昭5)</p>	<p>土橋 淳 (昭6)</p> <p>河合 頭二 (昭7)</p> <p>岩村 元雄 (昭8)</p> <p>上条 武彦 (昭9)</p> <p>沢田 安弘 (昭10)</p> <p>井手七重介 (昭11)</p> <p>杉村 勝弘 (昭12)</p> <p>石田 耕造 (昭13)</p> <p>御子神天雄 (昭14)</p> <p>神林 厚秀 (昭15)</p> <p>古山 巧 (昭16)</p> <p>田代 博泰 (昭17)</p> <p>小川 正久 (昭18)</p> <p>林 義直 (昭19)</p> <p>松下 直樹 (昭20)</p> <p>角田 等 (昭21)</p> <p>佐藤 貴志 (昭22)</p> <p>安田 泰敏 (昭23)</p> <p>小島 勝 (昭24)</p> <p>根岸 昇 (昭25)</p> <p>田中 一彦 (昭26)</p> <p>中川 明弘 (昭27)</p> <p>江口 輝章 (昭27)</p> <p>佐久間雄治 (昭28)</p> <p>藤沼 省二 (昭29)</p> <p>組委員 (旧中学) ( )は卒業期及び組 倉沢豊丸(中1・1) 三浦一 郎(中1・2) 堀田泰助(中1 ・3) 宮本義純(中2・1) 横山隆一(中2・2) 木村有朋 (中2・3) 松崎秀雄(中3・ 1) 山口國満(中3・2) 清 水昭一郎(中4・1) 田中卓也 (中4・2) 宮本正雄(中4・ 3) 武野友幸(中4・4) 大 島芳昭(中5・1) 外山武(中 5・2) 米山和夫(中5・3) 野中慶三(中6・1) 山口利昭 (中6・4) 田沢重昭(中7・ 1) 井上泰賢(中7・2) 積 田 義三(中7・3) 松本節治 (中7・4) (旧商業) 松本一磨(昭1・1) 柴山猛 (昭1・2) 柴田富雄(昭1・ 3) 田中耕作(昭2・1) 上 田三代治(昭2・2) 西田実高 (昭3・1) 西沢稔威雄(昭3・ 2) 倉島俊治(昭3・3) 吉 田和男(昭4・1) 岡本弘(昭 4・2) 島村武男(昭4・3) 菅原原博(昭5・1) 越田邦夫 (昭5・2) 園分紀久(昭5・ 3) 片岡秋夫(昭6・1) 川 中政治(昭6・2) 加藤喜一郎 (昭6・3) 富野優(昭7・ 1) 松本光夫(昭7・2) 桜 井勇(昭7・3) 松崎和夫(昭 8・1) (高校) 片庭伸一(中9高1・1) 片岡 秀之(中9高1・2) 鈴木啓介 (高2・1) 吉森繁登(高2・ 2) 石川誠(高2・3) 中村 貞夫(高2・4) 松本節也(中 9・1) 吉田尚弘(高3・1) 奥野照(高3・2) 山田舜一 (高3・3) 川田博(高3・ 4) 指田一郎(高3・5) 根 本光(高4・1) 星野恒雄(高 4・2) 永田貞雄(高4・3) 佐川桐司(高5・1) 折原節介 (高5・2) 渡辺仁(高5・ 3) 松本隆郎(高5・5) 土橋淳宏(高6・1) 黒須正夫 (高6・2) 水谷満(高6・ 3) 吉田勝治(高6・4) 吉 岡源一郎(高7・1) 石井昭治 (高7・2) 持田幸男(高7・ 3) 河合頭二(高7・4) 山 田富蔵(高7・5) 菅原一成 (高8・1) 早川弘一(高8・ 2) 赤沼啓三郎(高8・3) 若橋保男(高8・4) 三枝靖彦(高8・5) 福島久 雄(高8・6) 梅本喬(高9・ 1) 須田延雄(高9・2) 吉 川安司(高9・3) 上条武彦 (高9・4) 川城晋二門(高9 ・5) 原田潤(高10・2) 沢 田安弘(高10・3) 池田稔(高 10・4) 佐々木守國(高10・ 5) 東条忠彰(高10・6) 佐 久川元(高11・1) 加藤重紀 (高11・2) 宮瀬睦夫(高11・ 3) 井手七重介(高11・4) 今泉正正(高11・5) 島田青四 郎(高11・6) 三輪正義(高11 ・7) 坂村雄介(高12・1) 大川満(高12・2) 小堀昭夫 (高12・3) 諏訪勇夫(高12・ 4) 相沢勇夫(高12・5) 杉 村勝弘(高12・6) 富野正幸 (高12・7) 石田耕造(高13・ 2) 吉野紀夫(高14・1) 喜 多信博(高14・5) 御子神天雄 (高14・7) 高松雄次(高15・ 1) 田中芳男(高15・2) 大 場征一(高15・3) 新井英晴 (高15・4) 宮地卓夫(高15・ 5) 斎藤純一(高15・6) 本 庄正美(高16・1) 田中芳夫 (高16・2) 高橋明(高16・ 3) 伊藤康美(高16・3) 三宅洋一(高16・3) 今井敏 紀(高16・4) 樺星東太郎(高 16・5) 古山巧(高16・7) 中島敏一(高17・1) 黒田正信 (高17・2) 村木 茂(高17・</p>
--	--	---	--

# 委員長紹介



財務委員長

大木 興

この度財務を担当することになりました。日頃私は考えるのですが、総べて組織の運営は収支のバランスがとれた財務管理が根底となり、はじめて進行するものであると思います。これは事業の経営

でも、又どんな組織の運営でもみな同じではないでしょうか。私どもの業界の中にも、長い歴史を持ち、優れた技術があつても倒産してしまふ業者があります。そんな場合結果をみて、ホームマン経営とか設備投資の過大とか極め付けられます。しかし大抵は予算の組み方に無理があつたか或いは無理な予算を組み過ぎるを得ない事情があつた場合が多い様です。本会の運営には、収支バランスの良しとれた財務計画、これが本会を発展に導く何よりの原動力と信じて居ります。



名簿編纂委員長

田沢 重昭

過日の同窓会は盛大であり楽しい雰囲気のものであつた。以前に行われた同窓会と比べてみたとき今回、参加の卒業生の一人一人の顔を拝見してみ、同窓会の歴史がこころにあることをしみじみ感じました。その顔は母校がますます立派に発展していく姿を満ち

された顔であり、社会人としての余裕をもつた顔であつた。この盛大な同窓会は今後同窓会の結束を得るによい機会となつた。会の組織強化が進み、種々企画が実行されしつゝあるには大変嬉しいことである。この大会の開催発行はその一環として行われるもので会員の広報としての機能が十分に発揮されることを願ふ。



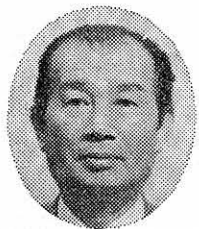
# 会報発刊に寄せて

元校長 滝沢 三郎



十四年前、あの立派な同窓会名簿が再刊されたとき、この仕事に骨折られたかたがたに感謝すると同時に、われわれはこれを通して血のかよつた連帯感を強め、この情熱に大きく応えようといつたのを覚えている。

前校長 安光 功



した同窓生のみなさんの共通な願いと努力によって会報が発行されることをお祝ひいたします。六月の総会には、北欧の教育視察のため、残念ながら出席できませんでしたが次の機会を今から期待しています。二十七年つとめた一中高から女子高に昨年四月異動しました。四

時の違いはあつても、若い青春の数年を法政の学舎に、ともに過

# 近況感想

土居 音三郎



一、会誌の発行をお喜びす

一、私は法政の教員三十六ヶ年 体育後援会長 四ヶ年 多年に渉る御厚情を感謝する。 一、現在九十一歳願ひは欠点もあり失敗の多いにも拘らず過分の幸せに恵まれている。恰かも沢山の借金をしているような感じであ

校長在任十五年をかえりみてみずからどんな役割を果したかかを思うとき 吐衄たるものがある。しかし、卒業生は日本中に刀つよく羽ばたいている。 同窓会々報も立派に創刊された。 同窓会々報よ、お前もまた日本中に、いや世界の空に大きく羽ばたいてくれ。

半世紀をこえた一中高は、みなさんと同じように私にとっては何となく故郷です。みなさんと過ごした日々思い出が走馬灯のようによろこぶように去来します。校歌の一節にあるように良き前、良き友のつどい懐ひあつた絆で、学園の発展と同窓会の隆盛のために、みなさんのご尽力を切にお願ひし欄筆します。

る。今の内に少しでも返済したいと思つて頑張っている。

一、数学教育の勉強は続いている。外国の教科書を見たが中々手に入らない。そこで文部省に外国の小中高の教科書展示する国際教科書館の建設を陳情した。 一、終りに臨み 法政第一 中高等学校の発展と同窓会諸氏の御多幸をお祈りする。

- |   |  |
|---|--|
| 3) 横川三喜雄(高17・4)   | 25・3) 大旗徳明(高25・4)  |
| 田辺勉(高17・5)  | 渡辺芳郎(高25・5)  |
| (高17・6) 粕谷俊一(高18・1)   | 桜井義則(高25・6) 加藤幸一(高25・7) 林秀和(高25・7)   |
| 1) 又木克彦(高18・2) 小林真(高18・3) 小川正久(高18・5) 金川寛(高18・6)  | 7) 大貫昭彦(高25・8) 清水正文(高25・8) 戸恒昌樹(高26・1) 津津佳仁(高26・2) 矢ヶ崎頭(高26・3) 田中庸貴(高26・4) 小林喜仁(高26・5) 田中一彦(高26・6) 斎藤精士(高26・7) 左野修一(高26・8) 水橋桂司(高27・1) 高橋誠(高27・2) 萩原久之(高27・2) 田口心(高27・3) 江口輝章(高27・4) 平田陽一(高27・5) 謝花寛行(高27・6) 大木正(高27・7) 浜田充(高27・8) |
| 真仲順(高21・2) 小川昭二(高21・3) 山田利夫(高21・3) 角田等(高21・4) 高麗威二(高21・5) 最越幸太郎(高21・5) 大藤昭(高21・5) 落合泰裕(高21・6) 中山隆嗣(高21・8) 佐藤貴志(高22・2) 金山一信(高22・2) 藤岡豊(高22・3) 井梅泰雄(高22・4) 大貫賢弘(高22・6) 鳥越正敏(高23・1) 吉富泉(高23・2) 石井俊彦(高23・3) 野崎芳彦(高23・4) 大村竜敬(高23・6) 安田泰敬(高23・7) 久保慎一(高23・8) 小島勝(高24・1) 丸山弘孝(高24・2) 岡敏夫(高24・3) 江森利夫(高24・4) 井手浩(高24・4) 大久保清志(高24・6) 江口厚行(高24・7) 長沢昭(高24・8) 川名健雄(高24・9) 根岸昇(高25・1) 進藤充宏(高25・2) 山本義之(高25・3) | 8) 須崎賢一(高28・6) 田出伸一(高28・7) 根岸明生(高28・7) 菱沼省三(高29・1) 深井誠(高29・1) 大竹柏司(高29・2) 岡村修(高29・2) 坂場達也(高29・3) 篠秀明(高29・3) 石井一(高29・4) 高橋肇(高29・4) 高橋洋文(高29・4) 白井隆司(高29・5) 中村実(高29・5) 大谷毅(高29・6) 羽村真(高29・6) 高橋淳(高29・7) 竹内康雅(高29・7)                  |



# 祝 一 同窓会報創刊記念

円正寺住職

倉 沢 豊 丸

中央区築地四一―二二一九  
電話 五四一―〇七六五  
(法政一高同窓会 会長  
旧制中学一期卒業)

中 村 雅 明

皂老 横浜市港北区篠原北二の十一の二八  
電話 〇四五―四〇一―四九八二  
(法政一高同窓会副会長  
旧制中学一期卒業)

東都ビルサービス(株)

岩本町ビル(株)

代表取締役 齋藤 英雄

千代田区神田岩本町一  
電話二五―一七八三―一〇四  
(法政一高同窓会副会長  
商業七期卒業)

法政大学第一中・高等学校長  
法政大学一高同窓会名誉会長

馬 場 昌 平

武蔵野市吉祥寺東町三十五―七  
電話 〇四三―三三二八―三二(代)

興亜火災海上保険(株)  
首都圏直轄営業部

野 村 光 一

中央区日本橋 審判一の四の一  
駿河ビル七階  
電話 七〇―六二一 内線三七七  
(法政一高同窓会副会長  
商業七期卒業)

株式会社林 屋

代表取締役 林 英 男

中央区日本橋横山町一の四  
電話 六八―一七四五・七四〇二  
(法政一高同窓会顧問  
商業一期卒業)

松濤印刷株式会社

取締役社長 松本 一 磨

新宿区上落合一の一九の六  
電話 九五〇―一六二〇―一  
(法政一高同窓会顧問  
商業一期卒業)

金窪編物(株)

大 木 興

皂老 市川市真間一―十三第二棟23号  
電話 〇四七三―二四一三〇七二  
(法政一高同窓会財務委員長  
旧制中学一期卒業)

昌見商事(株)

取締役社長 大木 崇

新宿区矢来町 四八  
電話 二六〇―一三六五二  
(法政一高旧制中学三期卒業)

田中フードマート

総合食品ストアー

代 表 田 中 雄 一

港区西麻布一―八―一五  
電話 四〇八―一七七八二  
(法政一高商業七期卒業)

音 ず し

森 田 健 三 郎

赤坂店 港区赤坂九一―一―七  
赤坂秀和レジナルホテルF1  
電話 四〇五―一九五〇―二  
中央区八重洲六―一五―キビルB1  
電話 二七―一―二〇六六〇  
八重洲店 電話 二七―一―二〇六六〇  
(法政一高商業七期卒業)